

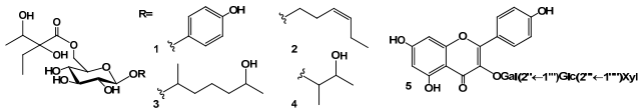
30E-pm06

モクレイシ葉部の成分研究

○寺澤 沙織¹, 上村 有加¹, 小山 裕加¹, 杉本 幸子¹, 松浪 勝義¹, 大塚 英昭¹,
武田 美雄²(¹広島大院医歯薬, ²安田女大薬)

【目的】モクレイシ (*Microtropis japonica* Hallier f.) はニシキギ科モクレイシ属に属し、神奈川、伊豆半島、九州、沖縄、台湾に分布する常緑低木である。我々は未利用植物資源の有効利用の一環として、沖縄県で採集した同植物の葉部の成分研究を行い、これまでに新規ジテルペン配糖体 6 種¹⁾、新規 2-ethyl-2,3-dihydroxybutanoic acid 誘導体 1 種²⁾を単離した。今回、本植物より更に新規 2-ethyl-2,3-dihydroxybutanoic acid 誘導体 4 種(1~4)、新規 kaempferol 配糖体 1 種(5)を単離し、その構造決定を行ったので報告する。

【方法】モクレイシの乾燥葉(3.25 kg)をメタノールで抽出し、順次 *n*-Hexane、EtOAc、1-BuOH で分配した。得られた 1-BuOH 可溶画分(32.1 g)について Diaion HP-20、silica gel、ODS カラムクロマトグラフィー、DCCC、HPLC を用いて分離精製を行い、上述の新規化合物 5 種(1~5)を単離した。得られた化合物の化学構造は、1次元及び2次元 NMR スペクトルを中心とした各種解析スペクトルを用いて決定した。これらの化合物の立体構造については、現在検討中である。



New compounds isolated from the leaves of *Microtropis japonica*

1) Koyama Y. *et al.*, *Phytochemistry*, **71**, 675-681 (2010)

2) 上村有加ら、日本生薬学会第 56 回年会(京都)、要旨集 p.179 (2009)